

おわりに

まず、持続性という側面から地域資源をどのように活かしていくか議論してきた。始めの段階では、持続することの重要性や必要性に焦点を当てた議論が多く、「地域資源を持続的に活用すること＝良いこと」というような展開をみせた。しかしながら議論を重ねる中で、持続させることが本当の意味で地域資源を活用していることになるのか、持続的に地域資源を活用していくことが地域の利益につながっているのかというような疑問がわいた。

現代社会には、「変わらないからこれまで持続できた地域資源」あるいは「変わらないとこれから持続できない地域資源」が混在する。また、空間的・時間的・物理的・経済的などのあらゆる変化や変容の中で、持続性は構築されていったり、失われたりするという分析もできる。私たちのグループの中でも、持続性の意味や定義を明確化することはできなかったが、あらゆるものが地域資源となり得る社会の中で、自らが主体的に地域資源について考察し、行動につなげていくことの重要性に気づくことができた。

各個人のテーマが決定されてきてからは、地域資源が形成されるまでの過程や地域資源が生み出す可能性についての議論が展開された。地域資源として形作られるまでには、見えない「陰」の部分の存在があることに私たちは着目した。特に人が大きく介入する地域資源においては、どうしても受け手の目に届く「光」の部分しか伝えることができない。それまでの過程も含めて地域資源であるということ考えもまた議論を白熱させた要因でもあった。「光」と「陰」の両方が存在するからこそ、地域資源が形成されていくものではないかというまとめがなされた。

また、各個人のテーマからもわかるように、地域資源は実に多様である。ハード面やソフト面の両方が存在し、あるいは両方の側面がある地域資源もある。人々の暮らしをよくするもの、人々の感情に訴えかけるものと、それらには大きな可能性がある。そして地域資源のいずれもが、人々に対して出逢い場や機会を提供している。地域資源は、人と人をつなぎつけるというための手段であり、目的でもあると言えるだろう。

私たちは、地域資源を活用する側でもあり、生み出す側でもある。今回は、地域資源を活かすための提言を私たちになりに考えてきたが、今後につなげる問題提起としては、提言した地域資源とどのように向き合っていくかがという視点が挙げられるだろう。

最後に、取材等でご尽力いただいた方々、団体の皆様に心からお礼を申し上げたい。ありがとうございました。